

「埼玉親善大使レポート in Canada」

氏名：柳橋奏太

活動場所：バンクーバー(カナダ)

1：はじめに

この度は埼玉親善大使に任命していただき、誠にありがとうございます。並びに私の留学を支援してくださった「カネパッケージ株式会社様」に感謝申し上げます。

2：留学先について

私はカナダの第3の都市でもあるBC州のバンクーバーに夏休みの期間を利用して3週間ほど留学しました。カナダは世界有数の多民族国家であり、様々なルーツを持つ人たちが街中で生活するため、異文化に触れることが多いため、とても貴重な体験になりました。公用語は英語とフランス語であったため、街の至る場所で英語と共にフランス語も多く目にしました。

3：現地での生活、風土、文化、歴史、国民性など

私は「SSLC」というバンクーバーの語学学校に通いました。午前9時から午後3時までには英語の授業を受け、週に4回ほど開催される放課後のアクティビティーに参加し、遊園地やカヤッキング(図1)などを通して、バンクーバーの名所を観光しました。現地の語学学校では、午前中は主にコミュニケーション、午後は文法などについて学習しましたが、日本の授業と比べても雰囲気異なり、現地の学校はアットホームな雰囲気や発言や質問などもとてもしやすかったです。先生もユニークで面白い先生ばかりでレベルも日本と比べてやや優しく、様々な国籍の人と会話することのできる貴重な経験になりました。

私はバンクーバー国際空港付近の「Richmond」という場所で生活しており、学校のある「Waterfront」までは電車とバスで1時間ほどでした。特に私が生活していたRichmondは中華系の方々が多く、中華料理店などがたくさんありました。また、カナダ発祥の「Tim & Horton」(図2)というファーストフードチェーンが街のいたるところにあり、飲み物からドーナツまでありとあらゆるものがほかのお店と比べても格段に安く、物価高のカナダでは特にお世話になりました。バンクーバーの夏の気候は日本と比べても圧倒的に涼しく、湿度もなく過ごしやすかったです。一方で、私が留学していた期間中にはBC州にて大規模な山火事が発生していたため、空が赤黒くなっていた時期もありました。また、カナダでは比較的治安が良いとはされていますが、通学中、街のところでホームレスや薬物乱用者などを見かけることを通して、社会問題をより身近に感じることもありました。

私のホストファミリーはギリシャ系の老夫婦(図3)でしたが、毎日息子のように優しく接してもらい、とても過ごしやすかったです。最初の頃はギリシャ特有の英語の発音を聞き取るのに苦労しましたが、そういった環境下でどのようにホストファミリーとコミュニケーションを取るかを模索し、ジェスチャーなどを利用しながら最終的にスムーズに会話できるようになった、という経験はとても貴重なものでした。また、ご飯なども食べ盛りなどを考慮し毎日満足する量のご飯を提供してくれたり、お弁当も毎回作ってくれたり、とても感謝しています。

また、3週間バンクーバーで生活していて感じたことは現地の人がとてもフレンドリーだということです。これはカナダに限ったことではないかもしれませんが、バスの運転手やスーパーのレジ待ちなどでも積極的に話しかけてくれ、とても親切にってもらいました。日本では見知らぬ他人の人とあまり会話を交わす機会が少ないため、初めは少し戸惑いましたが、自分側からも積極的にコミュニケーションが取れるようにもなりました。



図 1



図 2



図 3

4：埼玉県をPRした事柄について

私は、狭山市の特産物で日本3大銘茶の1つである「狭山茶」についてPRしました。まず、実際に狭山茶の味を体験してもらいたかったため、日本から狭山茶（図4）と茶せんを持参し、現地のホストファミリーに振舞いました（図5）。狭山茶は、「狭山火入れ」という狭山茶ならではの工程によって、濃厚な味が引き出されているため、ホストファミリーが気に入ってくれるか心配でしたが、実際に飲んでもらった後は作り方を覚え自分一人でも作るようになり、毎日のように飲むようになったため、安心しました。また、そのほかにも狭山茶について英語でまとめた簡単なパンフレット（図6,7）なども作成し、主に現地の語学学校にてPRを行いました。語学学校には韓国やブラジルなど世界各国から生徒が集まっており、世界的に緑茶や抹茶などのブームが流行していたため、狭山茶に関して興味津々に説明を聞いてくれて、「狭山茶、飲んでみたいな」や「埼玉県の名物を知ることができた」といった意見をもらうことができました。



図 4



図 5



図 6



図 7

5：自身の活動について

私は世界有数の環境都市であるバンクーバーにて、食と人々がどのように関わっているのか、という食のインフラに興味があったため、現地の持続可能な取り組みで食とも深く関わっているコミュニティーガーデンやファーマーズマーケットなどに訪れ、人々が食とどのようにサステナブルに関わっているか、を調査しました。コミュニティーガーデン（図8）とは、地域住民が公園や未利用地などを活用し、花や植物、野菜などを栽培する場所ですが、実際に訪れた時にはあまり人がおらず閑散としていました。私は地域住民がかなり積極的に野菜などを栽培していると思っていましたが、実際にはあくまで心の癒しや趣味程度で行っていることが分かりました。しかし、街中にも多くのコミュニティーガーデンが存在しており、どのコミュニティーガーデンも緑がとても豊かなため、暑さを和らげる効果や空気環境の改善、人のストレス軽減など単なる植物や野菜を栽培する場だけではないことを感じる事ができました。また、ファーマーズマーケットとは、地域の生産者や農家が自分で育てた農作物や加工物を持ち寄り、消費者に直接販売する市場のようなものを指します。私は「Trout Lake Farmers Market」（図9）と「Ladner Village Market」（図10）を調査しましたが、どちらも地元の野菜や果物からクラフト商品まで幅広い商品を取り扱っており、特に生産者と消費者との交流が目立っていました。どの出店ブースでも生産者と消費者の間でその商品が作られた背景や日常会話など活発なコミュニケーションが行われており（図11）、フレンドリーさ、というカナダの国民性が深く反映されている場面でもあったと考えました。また、全体的に売られている商品を観察しても、生鮮野菜よりも衣類や蜂蜜などといった加工品が多かったり、所々でバンドの演奏などがあることから、商売目的というよりは地域交流の場としての役割が大きいのではないかと考えました。ファーマーズマーケットに訪れている人は地元住民ばかりで観光客はあまり訪れていないと感じ、この原因としてファーマーズマーケットはマイナーな存在であるためではないかと思いました。



図 8



図 9



図 10



図 11

6：終わりに

出身地を聞かれたとき「埼玉出身」と海外で紹介すると、皆揃って「埼玉ってどこ？」のような反応をされる埼玉県が今回の留学を通して微力ながらも世界に広めることが出来たことを嬉しく思います。また、今回の「埼玉親善大使」に任命されることを通じて、より一層埼玉県について自分自身でも知ることができるとても良い経験となりました。今後この経験を活かして埼玉県をより一層調査し、知られざる埼玉県の魅力を世界に発信していきたいとします。